

令和8年度 白川郷学園 研究構想

【学園の教育目標】

ひとりだち ～ 挑戦 創造 貢献 ～

【育成を目指す資質・能力】

- 挑戦：目標に向かって、失敗を恐れず最後までやり抜く力
- 創造：変化を生み出し、新たな価値を創り出す力
- 貢献：仲間の幸せを願って行動できる力

【本年度、学園全体で取り組む学びづくりの視点】

- 「好き」を育み、「得意」を伸ばし、生涯にわたって学び続ける力を育む
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
 - ・自立した学習者を育てる指導
 - ・白川村の未来の創り手を育てる村民学の探究学習へのアップデート

【令和7年度の研究成果と課題】

○育てたい資質・能力や研究主題に関わる継続的な意識調査では以下のように、「できる」や「好き」、「している」と自信をもって回答する児童が増加した。

課題や目標に向かって、失敗を恐れず挑戦し、最後までやり抜くことができる。

できる：5月 58.6% → 10月 64.9%

今の状況に満足せず、仲間と新しものを生み出すことが好き。

好き：5月 64.9% → 10月 69.3%

自分も仲間も幸せになることを考えて、行動していますか。

している：5月 70.9% → 10月 73.3%

→低・中・高ブロックごとの発達段階に合わせて、振り返りの描き分け、全校研究会等の場面で目指す子どもたちの姿を全職員で共有したことで、子どもたち自身が創造した新たな価値を自覚することにつながった。

●必然性のある自己選択・自己決定や振り返りの場面設定に課題が見られることもあった。

→9年間の系統性や教科間、教科と村民学の関連をよりいっそう意識して教材開発を行い、子どもたちの問題意識を高める手立てを充実させる必要がある。

新たな価値を創造する子の育成

新たな価値とは・・・

次の学びにつながる「主体性」、「見方・考え方」、「知識・技能・概念等」

研究仮説

子どもたちが教科と教科、教科と村民学のつながりや教科内の学びのつながりを自覚しながら、問題意識をもち、課題や方法を自己選択・自己決定したり試行錯誤したりしながら粘り強く考え、学びの変容や高まりを自覚できるようにする。このような学びを継続すれば、次の学びにつながる「主体性」が涵養され、「見方・考え方」が豊かなものとなり、確かな「知識・技能・概念等」を獲得でき、新たな価値を創造したひとりだちできる一人ひとりになる。

研究内容

- (1) 縦のつながり（9年間の系統性）と横のつながり（教科間、教科と村民学の関連）を意図した探究的な単元・題材の構想 【指導計画の工夫】
- (2) 次の学びにつながる「主体性」、「見方・考え方」、「知識・技能・概念等」の育成 【指導方法の工夫】
 - ① 子どもたちの問題意識を高める手立ての在り方
 - ② 自己選択・自己決定して取り組むことができる学習環境の在り方
 - ③ 自らの変容や高まりの自覚を促し、次の学びに生かす終末の在り方